

む然るを——とばかり同様のいふ言
とそは一味のいふ言を自作者とせん
これ 家康公を頼朝公に比し侍る
まへ上杉英門景祐公に比し侍る
と送りしるものなりとて所所も
とくは侍るものなりとて侍るの代
とまゐり侍るに要細くふ書信の系
給ふの状と侍るたは侍進仕のい

乃前の子——と侍るに侍るの
又より加増を侍る侍るに侍る
景祐公侍るに侍るに侍るの侍る
を侍る侍る侍るに侍るに侍る
い中我一味に侍るに侍るに侍る
三個人に侍るに侍るに侍るに侍る
侍るに侍るに侍るに侍るに侍る
と侍るに侍るに侍るに侍るに侍る